

2011年9月27日

**森永生科学研究所が、農林水産消費安全技術センターと共同開発  
牛海綿状脳症（BSE）感染拡大防止のための検査キット  
「モリナガ加熱処理牛由来タンパク質検出キット Ver.2」を新発売**

森永製菓株式会社（東京都港区芝、代表取締役社長・矢田雅之）のグループ会社である株式会社森永生科学研究所（神奈川県横浜市金沢区、取締役社長・伊藤建比古）は、新商品「モリナガ加熱処理牛由来タンパク質検出キット Ver.2」を9月26日（月）に発売しました。新商品は、「飼料分析基準」に配合飼料及び動物質性飼料（例：ポークミール、チキンミール、フィッシュミール）中の牛由来たん白質の検査キットとして掲載されました。（2011年8月22日、23 消安第 2266 号農林水産省消費・安全局長通知「飼料分析基準の一部改正について」）

牛海綿状脳症（BSE）は、牛の脳の中に空洞ができ、スポンジ（海綿）状になる病気で、人畜共通感染症として知られています。BSE 感染拡大の原因として、牛の飼料に異常プリオンを含んだ汚染肉骨粉を使用したことが強く疑われています。そこで農林水産省は BSE の感染拡大防止に万全を期すため、飼料安全法関連法令の改正（2003年6月27日 農林水産省令第64号「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令」）により、牛などの反すう動物に供与する飼料は動物由来たん白質と完全に分離した工程で製造を行うことを義務づけました。

上記省令を受け、株式会社森永生科学研究所は独立行政法人 農林水産消費安全技術センターと共同で、飼料中に牛由来たん白質が存在するかどうかを検査するためのキット「モリナガ加熱処理牛由来タンパク質検出キット」（以下、現行品）を開発し、2003年に発売を開始いたしました。現行品は「飼料分析基準」に掲載され、製造管理および品質管理のスクリーニング検査用試薬として飼料会社・レンダリング会社等に活用されています。しかし、豚たん白質に交差反応を示すため使用できる飼料の範囲が限定されていること、乳原料に交差反応を示すため正しい検査結果が得られないこと、2008年に試薬の一部が医薬用外毒物に指定されたため試薬の管理が必要なこと、などお客様にはご不便をおかけしておりました。

そこで、株式会社森永生科学研究所は独立行政法人 農林水産消費安全技術センターと共同で、現行品の性能を改良し交差反応を大幅に減少させた新商品を開発しました。新商品は牛由来たん白質における検査の適用範囲が配合飼料及び動物質性飼料となり、更に医薬用外毒物を使用せず環境面・安全面に配慮することで、使いやすいキットになっております。

商品名：モリナガ加熱処理牛由来タンパク質検出キット Ver.2

希望小売価格：72,000 円（税抜）

販売形態：株式会社森永生科学研究所より直接販売

